

地方創生交付金事業 実施状況説明書

目次

かつうら観光ぷらっとフォーム事業	・ ・ ・ ・ ・	1
(仮称) かつうら海中公園再生計画事業	・ ・ ・	5

かつうら観光ぷらっとフォーム事業 【評価 C】

担当課：観光商工課

実績額 37,773,017円（うち交付金 18,886,508円）

1. 事業の目的・概要

令和2年度に地域DMOとして登録された一般社団法人勝浦市観光協会を中心として、地域の稼ぐ力を引き出すとともに観光地経営の視点に立った観光地づくりを推進するため、専門人材の雇用、観光情報の発信、新たなツーリズムの推進等の事業を実施した。

2. 事業の内容

(1) かつうら観光まちづくり運営事業 22,000,000円

観光情報のワンストップサービス

KAPPYビジターセンターを中心に勝浦駅前観光案内所、鵜原駅前観光案内所、興津・守谷観光案内所において、来訪者への観光情報の提供、宿泊手配など、ワンストップでの観光サービスを行った。

【観光案内件数（件）】

KAPPY ビジターセンター	勝浦駅前観光案内所	鵜原駅前観光案内所	興津・守谷観光案内所
3,971	5,105	2,392	547

ポータルサイト管理 / 観光情報発信

勝浦市観光協会が運営するホームページのトップページをリニューアルし、内容も閲覧者が見やすいよう更新した。掲載内容は、勝浦朝市、宿泊施設、飲食店、観光施設等を紹介するとともに、専門ページの開設により充実を図った（閲覧数：年間508,038件）。

また、Instagram、FacebookといったSNSを活用し、若い世代をターゲットとした朝市情報やレンタサイクルなどの体験コンテンツ情報の発信を強化した（令和3年のInstagramフォロワー数は331人増の2,071人）。

着地型観光商品の紹介

コロナ禍における着地型観光商品として、レンタサイクルを活用したモバイルスタンプラリーを実施した（1回あたり9日間として、年5回の計45日間実施し、参加者は156人）。当初のターゲットである若年層だけでなく、幅広い年代へのPRとなった。

また、地域固有の価値を旅行者へ届けることを目的に、体験型商品の販売としてタケノコ堀りを実施した（開催日数9日間で参加者25名）。コロナ禍によりまとまった集客につなげることができなかった。

ひな祭り期間をメイン販売とした勝浦土産の開発に着手したが、イベントが中止となったことから、市内宿泊施設などでの販売のみとなった。

コンソーシアム運営員の雇用（観光に関する専門員としての人材教育を内部で行う）

地域ＤＭＯとして、地域特性を活かした魅力的な観光地づくりの推進を目指し、勝浦朝市や観光関連事業者等と連携した事業を実施するため、事務運営員を雇用した。

（２）外部から専門人材雇用 9,773,617 円

地域ＤＭＯとして、稼ぐ力を引き出すため、観光地再生戦略の実行・検証、マーケティング、情報発信、商品造成に係る知識及び能力を有するなど組織を運営・経営する専門人材を雇用した。

コロナ禍にあり、観光客の減少が続く、対面による販売・売上が伸び悩むなか、地場産品を多く取り扱うかつうら商店オンラインショップを新たに開設した。これにより顧客の拡大や一定の売上の確保につながった。また、勝浦ウォーターアイランドの運営に予約システムやレジ業務の改善を行い、効率的な運用を図った。

海水浴客の減少が続くなか、市内海岸の活用による地域活性化の可能性を調査した。そのなかで、特に、国際環境認証であるブルーフラッグの認証取得の可能性や夏季以外の海岸利活用方策について、調査・検討を行った。

（３）インバウンド対策強化事業 2,999,700 円

本市においては、日本武道館研修センターや国際武道大学といった、武道とスポーツ全般に渡る教育振興に係る拠点が存在することに加え、430年以上の歴史を持つ勝浦朝市や産業観光施設としての酒蔵、また歴史的資産としての社寺など、豊富な文化的資産も有しており、これらを複合的に活用したツアーコンテンツの開発によって、インバウンド需要の吸収拡大強化を図った。

なお、本事業の実施に際し、事前に昨年度の段階でコンサルティングを導入していることから、本事業ではその報告結果を十分に加味した上で、インバウンドが実質停止している現状も鑑み、ターゲットを在日外国人に定めた。さらに、文化的・イベント的付加価値も加えるため「ビッグひな祭り」の開催に合わせるかたちでのツアー実施を計画した。

しかしながら、令和4年1月19日より千葉県全域が「まん延防止等重点措置区域」に指定されたことに伴い、ビッグひな祭りが中止されたため、本商品(ツアーコンテンツ)の販売も見送られることとなった。

本事業で作成された専用のホームページや弓道を紹介する動画は観光協会ＨＰに掲載しているが、今後、コロナの情勢等を見定め、ツアーを行う予定である。

（４）スポーツ・ヘルスツーリズム推進事業 2,999,700 円

勝浦のストロングポイントである豊かな海と里山を舞台に事業展開しているマリンスポーツ事業者等と連携した上で、リアス式海岸特有の多様な景観を有する海岸でのＳＵＰ体験

をはじめ、様々なマリナクティビティや、キャンプ場等を活用した多種に渡る里山体験を組み合わせた観光ツアーコンテンツを、心と身体の健康をサポートする「スポーツヘルスツーリズム」に結びつけ、着地型観光の推進を図った。

本ツーリズムのメインターゲットについては、教育旅行の団体客とした。これは長引くコロナ禍、修学旅行等の教育旅行が従前のものから大きく様変わりし、「近場」「密にならない」「アウトドア」が注目されているなかで、勝浦はマリンスポーツ関連事業者が互助関係を構築しており、さらに SUP 体験に用いる多数のボード確保が可能であることから、他地域と差別化できることに起因する。

今回構築したツーリズムは対外的な評価も得て、千葉県観光企画課で制作される「教育旅行 in 千葉」に掲載され、首都圏の教育機関に配布された。さらにその実績を携え、旅行代理店はもちろんのこと、教育機関及びスポーツヘルスに対し高い関心を示すと見込まれる事業者に直接提案も敢行した。

今後、教育旅行の受入れに向けて、さらなるプロモーションに努める。

３．本事業における重要業績評価指標（KPI）

	指標名	単位	目標値(2021)
KPI	交流人口(観光入込客数)	人	1,515,000
KPI	観光関連雇用創出者数(延べ、飲食・宿泊業含む)	人	335
KPI	住民主導型まちづくり活動の実績(延べ)	団体	21
KPI	市内宿泊客数	人	324,700

(カッコ内は実績値)

	事業 開始前	2017 増加分 1 年目	2018 増加分 2 年目	2019 増加分 3 年目	2020 増加分 4 年目	2021 増加分 5 年目	KPI 増加分 の累計
KPI	1,120,000	129,140 (990,860)	83,408 (1,074,268)	173,885 (900,383)	593,923 (306,460)	20,680 (327,140)	792,860
KPI	20	8 (28)	5 (33)	3 (36)	2 (38)	13 (51)	31
KPI	3	3 (6)	3 (9)	4 (13)	2 (15)	1 (16)	13
KPI	296,000	22,961 (318,961)	9,644 (328,605)	16,472 (312,133)	96,092 (216,041)	4,503 (220,544)	75,456

目標の達成等を阻害する要因及び状況の変化・目標達成に必要なこと(要因・課題)

【交流人口及び市内宿泊者数が目標値に至らなかった要因】

「観光」は新型コロナ感染拡大による影響をまともに受けやすい分野であり、どうしても新型コロナに起因する社会情勢の変化に大きく左右されてしまうのが現状である。

2021年度当初は全国的にワクチン接種も進んだことから、希望的観測により観光需要も回復に転じると予測された。しかし、結果的には前年度と同様、千葉県内及び周辺都県に緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が断続的に発出されたことに起因し、当市観光の主要コンテンツである海水浴場が2年連続の不開設となったことに加え、春の観光を担うかつうらビッグひな祭りも3年連続で中止となったことから、観光客の入込も宿泊者数の回復も鈍化し、当所の目標値から大きく乖離した結果になった。

【課題】

今後しばらくは継続するであろうこの状況のなか、社会情勢の変化、人々の意識の変化を敏感に捉え、これまで踏襲してきた観光スタイルに固執することなく、柔軟でしなやかな思考のもと、新たな観光スタイルを模索していく必要がある。

要因・課題を踏まえた具体的な取組(改善策・取組方針)

【交流人口及び市内宿泊客数の減少に対する改善策】

長期化するコロナ禍にあって、人々の価値観は大きく変化し、観光需要のトレンドは「少人数」、「アウトドア」、「マイクロツーリズム」、「ワーケーション」に変遷してきた。

このトレンドを念頭に置き、これまでぷらっとフォーム事業を通じて造成してきた観光コンテンツのプロモーション展開と販売を各関係機関と協働しながら継続していく。

併せて、昨年度策定した観光基本計画に基づき、多彩な観光資源の開発・強化、観光地としての魅力の向上と発信、オール勝浦での観光地づくりの推進を実施・展開し、交流人口の増加を目指し、地域活性化を図る。

委員意見

委員 評価	【評価等に対する意見】

(仮称) かつうら海中公園再生計画事業

担当課：観光商工課

1. 事業の目的・概要

本市の基幹産業である観光業は、主に海水浴を中心とした夏季観光がメインであったが、近年の観光行動の変化や観光ニーズの多様化が進むなか、通年型観光への転換や滞在時間の延長などが課題となっている。

この課題を解決するため、かつうら海中公園内に観光の目的地となる魅力ある施設を新たに整備することにより、通年型の観光地づくりや滞在時間の延長による旅行消費額の増加、地域への周遊促進を図る。

2. 事業の内容

かつうら海中公園内に、豊かな自然の造形に接し、健康的なレクリエーションの場として人々が集う新たな施設を整備する。

【施設概要】

施設名称 かつうら海中公園滞在型観光施設 eden (エデン)
 建設場所 勝浦市吉尾272番地ほか
 構造 鉄筋コンクリート造 3階建
 延床面積 725.10㎡
 運営 指定管理者による運営

1階 レストラン・物販コーナー・足湯

2階 スパエリア

【事業費】

契約額：410,663,000円(交付決定額：199,734,000円)

3. 本事業における重要業績評価指標(KPI)

	指標名	単位	事業開始前	2022年度増加分
KPI	施設利用者数	人	0	60,000
KPI	旅行消費単価	円	11,500	100
KPI	朝市観光客	人	76,000	4,000



レストラン



物販コーナー



スパエリア